

保育専門委員会（第1回、12月4日開催）における主な意見（未定稿）

- これまでの保育指針は、主に保育所向けのものとして作られていたが、今回の改定では、地域型保育などにも発信できる中身にしていくことが重要。また、子育てをしている家庭に対しての発信も重要。
- 保育指針で重視してきた保育所の社会的責任や子育て支援等については、引き続き重要。特に子育て支援については、積極的に発信することが必要。
- 幼稚園教育要領や認定こども園教育・保育要領との整合性を含めて、今回の改定で整理をすることで、現場の保育士などにもより分かりやすい形になるとよい。
- 0から2歳の保育の重要性を保育指針で示すことが必要。乳児保育においても、1対1ではない集団としての保育の役割があり、乳児期に出会った大人とのきずなや他者との関係性をつくることの重要性を意識することが重要。
- 乳児期は人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も成長する時期であることから、この時期に安心感を抱いて毎日を過ごすということが、将来の健全な情緒と心を形成する上で非常に重要。
- 赤ちゃんは生まれたときから主体性を持っており、主体性を持った乳児にかかわっていく上で、応答性が非常に重要。また、家庭との連携の中で保育をつくっていくことが重要。
- 0から2歳の未熟な時期に、十分に情動のやりとりを行うことが、人の気持ちがわかる、わからないなどの、人としての土台につながっていく。保育者はこのようなことも意識してこの時期の保育を行っていくことが重要。
- 0から2歳児の利用が増えてきていることも踏まえ、この時期の保育の内容について強化が必要。また、子どもと保護者双方の生活の基本が整っていることが重要であり、ソーシャルワーク的な視点の導入も検討すべき。
- 0から2歳児と、3歳以上児とでは、食事や午睡の問題などで異なる面が多いので、切り分けて、具体的に示した方がよい。

- 自ら創造することや人と協働することなど、これからの社会で重要となることも見据えて、国民皆が、乳幼児期に大切なことを共有できるようにすることが重要。
- 学校教育でないから、保育所は教育をしていないという一方的な意見もあり、保育所としての教育の明確化が課題。0から2歳児についても、自己形成の視点から教育的機能を捉えていくことができる。
- なぜ遊びが重要かということには、それぞれ科学的根拠があるものであり、そうしたことをよりしっかりと示して、何を育てているのかという意識をしっかりと持って保育を行うことが重要。
- 保育所でもしっかりと教育を行ってきていることについて、より明確に記載していくことが必要。また、3から5歳の部分で幼稚園教育要領と中身を共通化し、書き方や構成をある程度そろえていくことで、誤解を減らすことができるのではないか。
- 保育所で保育を受けた子どもたちがスムーズに、自信を持って小学校に入学していけるようにするためにも、幼児期後半の遊びは重要。また、特に接続の時期について、書き方の検討が必要。
- 保育の現場の可視化や、保護者への伝え方の工夫も重要。また、小学校への接続に関しては、保育所、幼稚園、認定こども園の三種類の要録があり、各園での書きぶりも違っているので、現場が使いやすいような要録を検討することも重要。
- 配慮を必要とする子どものいるクラス保育について悩みを持っている園が多いと感じる。個別の支援に関することと並行して、そのようなクラスの保育についても意識して検討することが必要。
- 偏食や小食など、子どもの食に悩みを持つ保護者が40%いるというデータもあり、子育て支援の観点からも、保護者への食に関する支援を行うことが重要。また、調理員を保育室に入れられないという園もあり、食育を支える調理員の保育における役割をより丁寧に示すことについても検討が必要。

- 事故予防や安全対策の上で、看護師の果たしている役割は大きい。保育士と看護師がともに協力して保育保健の専門性の向上を図っていくことが重要。
- 子どもと家庭、家族は一体であり、子どもの自己肯定感を育てる上でも、子どもが誇りに思えるような家庭、家族関係になるような支援を行うことが重要。
- 現場では、愛着障害の子どもたちが増えている感覚を持っている。保護者のアタッチメント、愛着形成がうまくいかない原因として、子育ての不安などの問題がある。アタッチメントが育つ乳幼児期の教育について、家庭等での教育にも共通する理念を語る事が重要。
- 主任児童委員や民生委員、児童館、保健センターなどと保育所とが連携した、地域の子育て支援の役割も重要。こうしたことを示していくことで、地域への発信や地域型保育での活用につなげていくこともできると考える。
- 学校においては、スクールカウンセラーによる支援の取組が進んでいるが、保育所においても、ソーシャルワークなどに関して、保育士以外の専門職との連携が重要。カウンセラーやケースワーカーとの連携は、保育士への支援という観点からも重要。
- 保育指針を検討する中で、保育士の役割や業務についても、しっかりと検討を行うことが必要。また、保育所という組織としての役割と保育士が何を担うかという役割の整理も必要。そうしたことが規定できれば、保育の質の向上にもつながると考える。
- 保育をめぐる様々な環境が変化する中で、園長が意識を持って取り組んでいくことが重要。また、園長や主任と保育士との関係が、子どもたちの保育にも影響を及ぼすとの声もあり、リーダーシップの在り方も重要。

